



野原 恵子 議員  
(日本共産党  
幕別町議員団)

**問 性の多様性を尊重する手だてを**

**答 町職員の研修や住民向けの講習会等を検討する**



性の多様性の実態は、「LGBT」という言葉を通じて急速に広がっている。Lレズビアン（女性同性愛者）、Gレズイ（男性同性愛者）、Bバイセクシュアル（両性愛者）、Tトランスジェンダー（自身の性別に違和感を持っている）の頭文字による調査では、全人口の約8%、13人に1人の割合で存在していることが分かっている。「LGBT」の方が、差別や偏見を受けることなく、自分らしい生き方ができるよう、全国で行政が対策を始めている。次の点について伺う。

- (1) 町職員の認識を高める研修を。
- (2) 町民に正しい知識が根付くよう、広報活動や講習会の実施を。
- (3) 小中高校の教職員への研修を。
- (4) 図書館・保健室の蔵書整備を。

**町長** (1)、(2) LGBTに関する認識は、まだ十分な状況ではない。特定の担当職員のみならず、全職員がLGBTに対する正しい知識

を持ち、LGBTの方々が抱えている課題についても共通理解を図りながら、適切に対応する必要がある。このような取組を進めるためには、十勝全市町村が一体となつて広域的に取り組むことが効果的であり、「十勝定住自立圏共生ビジョン」において、十勝全体の共通課題として捉えるよう提案し、職員研修や住民向けの講演会等の共同実施に向けて検討を進めたい。

**教育長** (3) 町内の小・中学校では、国などの資料や通知を基に、職員会議や校内研修等により、LGBTに対する適切な理解を深めている。今年度は十勝教育研修センターによる研修講座の中にLGBTに係る講座が組み込まれており、一定程度の研修は実施されている。高校の教職員に対する研修では、国や道からのLGBT等に関する通知や資料は、道立高校とともに私立高校にも発出され、校内研修や道教委等の研修により理解が進められている。

(4) 町図書館の「LGBT」関連図書は45冊。今後も人権や人の尊厳に配慮しながら、時事に関連する資料や時機を捉えた図書の収集に努めたい。学校図書館の蔵書では、小学校4校12冊、中学校2校3冊。保健室への図書の整備は、保健室が比較的限られた児童生徒により利用されることを想定した場合、プライバシー保護の観点から、一律に整備することは難しい。

**問 若者・大人の「ひきこもり」支援の手だてを**

**答 相談支援体制の充実に努める**



「ひきこもり」は6か月以上自宅にひきこもり、社会的参加をしない状態が持続すること、精神障害が第一の原因と考へにくい状態を「ひきこもり」と呼んでおり、30・40歳代からひきこもる人が増えている。こうした状態を変えていくには、第三者の手助けが不可欠といわれている。次の点について伺う。

- (1) 「ひきこもり」の実態調査を。
- (2) 相談支援の充実に。
- (3) 家族への支援を。
- (4) 社会参加の手だてを。

**町長** (1) 国等の実態調査で導き出された傾向を踏まえ、ひきこもりの相談の機会を通じて、当事者やその家族との個別のヒアリング調査により、当事者一人ひとりの状況に応じた支援に努めたい。

- (2) 昨年9月、女性を対象とする「ひきこもり当事者の会」が発足し、町では職員が会の立上げ準備から関わり、会場確保や会合にも出席するなどしている。今後も、町とすることができる限りの支援に努めたい。
- (3) 今年開催される研修会は、親や家族がひきこもりに対する理解や具体的な対応を学べる機会となることから、参加を促したい。
- (4) 「ひきこもり当事者の会」の方々の意見を聞きながら支援の充実に努めたい。

